

SAKAI
CITY
MEDICAL
CENTER

救急救命技術科

【 概要 】

平成3年に救急救命士法が制定されました。従来は、公設救急隊でしか行えなかった救急救命処置が、令和3年10月の法改正により病院内において患者が入院するまでの間でその対応が可能となりました。

当院でも救急医療の一員として令和4年に救急救命士を採用し、救急救命士が所属する部署として救急救命技術科が組織化されました。

◆ 科の方針

- 救急外来におけるタスクシフト推進により、医師や看護師の負担軽減と救急体制の強化
- 安全な施設間搬送(下り搬送)により地域の医療機関と連携して、病態にあった医療機関での入院と治療に貢献する。その結果、公立病院として地域の医療体制を守ること

◆ 現在の体制について

救急救命士3名(常勤) 勤務時間：平日8時30分～17時00分

今後は、救急救命士を増員し、休日や夜間帯にも常駐することを検討しています。

【 救急初療室 】

二次初療室



二次初療ベッドが4床、経過観察や結果待ちのバックベッドが4床、ウォークイン用の診察室が5部屋(うち感染症対応が2部屋)あります。

三次初療室



三次初療室には診察台が2台あり、救急専用CT室や救急専用ハイブリッド手術室が直結しています。
三次初療室の診察台は、上記CT室やハイブリッド手術室と同じものを使用しているため、患者の移動が不要であり安全な診療システムです。

【 救急救命士が使用する車両等 】



救急救命士が使用する車両は2台ありますが、写真の救急車(ベース車:日産キャラバン)を主に使用しています。

救急車内に搭載している資機材



モニター付き除細動器、持ち運び可能な吸引器、吸引物品、携帯酸素ボンベ、酸素マスク類、バックバルブマスク、感染防護具など



救急車2台にそれぞれ搭載

【 業務内容 1 】

◆ 救急初療室

二次救急（小児含む）や三次救急の患者対応、診療の補助、各処置介助、電子カルテ入力、検査まわり、12誘導心電図検査の実施など

◆ 病院前活動

救急外来や病棟から二次医療機関へ病院救急車を用いた転院搬送

- ・ 申し送りの聴取と先方への伝達
- ・ 搬送中の患者状態の観察と救急救命処置の実施
- ・ 急変時の対応
- ・ 救急救命処置録の記載
- ・ 必要に応じた緊急走行の実施
- ・ データ集計業務
- ・ 車両の管理、点検

◆ 救急医療に関連した各種コースの運営補助

現状は補助として参加しているが、資格取得後はインストラクターとして担当予定

◆ 災害医療業務（順次開始予定）

災害拠点病院であるため、DMAT隊員としての研修や活動を含む

◆ その他

病院内で救急救命士が活動するための委員会(ワーキンググループ)への参加

【 業務内容 2 】

救急外来での患者対応や病院救急車を用いた患者搬送が主な業務となります。今後は災害医療業務や、当院主催のICLSコースやJPTECコースをインストラクターとして担当予定となっております。さらなる業務拡大も期待されています。堺市を始めとする地域住民が適切な医療を受けることが出来るように、当院での救急医療のサポートや各医療機関への転院搬送に日々努めていきます。

【 臨床研修、教育体制について 】

◆ 臨床研修

救急医や看護局の協力により、救急外来だけでなく救命病棟での救急救命処置の実習を行っています。

◆ 教育体制

年間スケジュールやチェックリストに沿った先輩とマンツーマンで実施
新卒の方や経験が浅い方でも、安心して成長できる環境があります。

【 その他 】

◆ 搬送実績

2024年度（4月～7月）	: 104件
2023年度	: 219件
2022年度	: 172件

◆ スタッフ所有資格など ※2024年8月現在

所持資格・受講コース名	該当者数
ICLSプロバイダー	1
ICLSアシスタントインストラクター	2
ICLSワークショップ受講済み	1
JPTECプレインストラクター	3
AHA準拠 PEARS（小児救急の評価・認識・病態安定化）プロバイダー	1
ISLS（脳卒中初期診療）プロバイダー	1
JTAS（緊急度判定支援システム）コース受講	1
PEEC（精神身体合併症）コース受講	1
一般社団法人 日本救急救命士会 会員	1
一般社団法人 日本臨床救急医学会 会員	1